

令和元年度第5回 印西市市民活動推進委員会 企画提案型協働事業 公開審査会（アイデア審査） 会議要旨

1. 開催日時 令和元年8月16日（金） 午前9時～11時
2. 開催場所 文化ホール2階 大会議室・多目的室
3. 出席者 粉川一郎委員長、志村はるみ委員、椎名武博委員、藤澤進委員、
安倉史典委員、林典子委員、足立秀一委員、矢野真理委員、
樋口祥明委員、坂本富彦委員 以上10名
4. 発表者 3名（NPO法人ハートフルコミュニケーション千葉エリア2名、
NPO法人エコネットちば1名）
5. 事務局 市民活動推進課 佐瀬課長、金井係長、櫻井、榎田
6. 傍聴者 3名（定員20名）
7. 会議内容
 - (1) 企画提案型協働事業 公開審査会（アイデア審査）／スケジュール及び
評価の確認について
 - (2) 企画提案型協働事業 公開審査会（アイデア審査）
 - ①プレゼンテーションの進め方と審査方法等の説明
 - ②プレゼンテーション
 - 提案1 家庭教育力の向上支援事業「子育てを学ぼう！ハートフル
キャラバン」（NPO法人ハートフルコミュニケーション千葉
エリア）
 - 提案6 竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業
(NPO法人エコネットちば)
 - ③審査結果発表・講評

8. 審査記録

- (2) 企画提案型協働事業 公開審査会（アイデア審査）
 - ①プレゼンテーションの進め方と審査方法等の説明

事務局説明

- ・プログラムに基づき、本日の審査会の進行について説明した。また、提案2から提案4の継続提案については、平成30年度企画提案型協働事業実施要領に基づきアイデア審査は行わず、書類審査のみで最終審査へ進出したことを報告した。

②プレゼンテーション

提案1 家庭教育力の向上支援事業「子育てを学ぼう！ハートフルキャラバン」 (NPO 法人ハートフルコミュニケーション千葉エリア)

提案者の発表

- ・パワーポイントを使い、持ち時間内に企画提案のプレゼンテーションを行った。

質疑応答

(質問) 親も子どもも一緒に成長していくという良い事業だと思う。活動においてハートフルコーチの果たす役目は大きいと思うが、人数や研修はどうなっているのか。

(回答) ハートフルコーチ養成講座という一年間かけて学ぶ講座がある。またそれを伝えるために、いくつかの認定試験を行い、それに合格した人が各地で活動したり行政からの依頼を受けて講座を行ったりしている。現在総数 50 名のコーチがいる。

(質問) 社会的ニーズにあった良い提案だと思う。子育て支援拠点などで実施するとなっているが、子育て支援センター等で行っている事業と目的は同じ方向だと思う。相乗効果が期待できる反面、活動内容の棲み分けや位置付けはどのように考えているのか。また、コーチングは保育士等の専門職の方なのか、それとも子育て経験のある一般の親御さんなのか。

(回答) まず、活動の違いですが、子育て拠点では、様々な親向けのサポートはあるが、親が子育てを学ぶというプログラムは少ない。また、悩みを持つ親が安心してじっくりと話せる環境や時間を提供しているところはなかなかない。支援センター等は親子で集うことが目的であり、親が学べる環境を整えているというケースは少ない。「子育てを学ぶ」ことが「継続してできる」といことが、活動の違いと考えます。

次に、一年間の養成講座を修了してハートフルコーチになるが、ワークショップなどを行うためには、その後さらに一年間の養成講座を受けたのちオーディオを受けて通った者のみが、認定ハートフルコーチとして様々なところから依頼を受けて講座を開設している。50 名という話があったが、講演、ワークショップ、セッションでそれぞれ認定の仕方が違うので、総数が 50 名ということである。あくまで NPO 内の認定ではあるが、皆かなり訓練を積んでいる。体験を持っている一親でありながら、場を作っているというのが私たちの団体の大きな特徴だと思っている。

→担当課とうまく調整して補完しあえるよう関係で進めていってほしい。(委員)

(質問) 市内で先行して活動を行っている団体のことは調べていると思うが、そういったところとどのように連携していくのか。子育て支援や親への支援を行っ

ている団体は多々あると思うが、そのうえでどういったところを担っていくのか。また印西市でやる意味は何か。具体的なターゲット層はどのあたりなのか。子育てで悩んでいる親には、外に出て相談できる人もいれば、自分が悩んでいるということ把握していない人いる。そのような人をどうやって講座に出させるのか。

(回答) 他団体との連携については活動は違っても同じ方向を向いていることが大事だと思う。ハートフルコミュニケーションを広めるために活動をするわけではなく、安心して子育てができる環境を作るための一つのノウハウとしてハートフルコミュニケーションが何か役に立てるのではないかと考えている。最近の母親は実際のコミュニケーション怖がっている傾向があるが、第三者が入ることによって円滑になる。そのような活動をしている団体とともに、拠点の一つを担いたい。また、今回ターゲットにしているのは、就学前の子を持つ親を考えている。乳幼児期の母親たちはつながりを求めているが自分たちでは創れない傾向にある。乳幼児期の親がその間につながりを創れるとその次の活動へと展開しやすい。まずは、需要があり今後の活動が期待できる乳幼児期の親をターゲットとしていく。顕在化していない問題を掘り起こすのが目的のひとつ。協働事業として行政とタイアップすることでできるだけ多くの必要としている人に届けたい。

(質問) 会員の拡大はしないということか。

(回答) 会員の拡大は目的としていない。

(質問) 特定のメソッドを市が支援するというような形になるのはどうなのかと思うがどのように考えているか。

(回答) ハートフルコミュニケーションを広めることを目的としているわけではない。選択肢の一つになればよいと思っている。

ハートフルコミュニケーションとは何か教えを説くというものではなく、考え方のフレームワークを提供しているととらえてほしい。親に考える場を提供している。

提案6 竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業（NPO法人エコネットちば）

※指定テーマについては、担当課の都市整備課がプレゼンテーションに同席。

提案者の発表

- ・パワーポイントを使い、持ち時間内に企画提案のプレゼンテーションを行った。

質疑応答

(質問) 後継者の問題についてはどのように考えているか（提案者への質問）。池の中の整備についてはどのように考えているか（担当課への質問）。

(提案者回答) 平均年齢は 60 代、あと 5 年、7 年ぐらいは十分体力的に持つと考えている。若い人にも声はかけているが、皆さんからも声をかけてくれるとありがたい。

(都市整備課回答) 昨今、印西市では千葉ニュータウン内の公園などでは 20 年経っているものもあり、老朽化が進んでいる。松山下公園でも大規模な改修がある。優先順位をつけながらなるべくお金をかけずに長持ちするよう努力をしている。

(質問) この事業を成功事例にして他に展開していかないといけないなかで、行政としてこの事業をどのようにして自立させていくのか。

(都市整備課回答) 竹袋調整池は協働としてうまくいっているので、このような事業を広げていきたいとは考えている。一方、他の公園では通常の草刈業務は業者が行っており、部分的に、年に数回の美化活動として市民の方にゴミ拾いや花の植栽などを行っていただいている状況だが、残念ながらここまで大きく広げていこうという声はまだあがっていない。粘り強く呼びかけていき、広げていきたい。また、事業年数は長くなってきているが、新しい事業やイベントを行っている。今後も続けていきたいと思っている。

(質問) 地域で多く利用されているのにもかかわらず、市としては正式に公園として正式に位置づけていない。一市民としては公園として位置付けてもらいたいが。

(都市整備課回答) 公園に位置付ける計画は今のところはないが、皆さんに喜んでいただけるものは続けていきたい。

(質問) 池に土砂の流入や植物の繁茂があるとのことだが、その状態で調整池としての機能、安全性に問題はないのか。

(都市整備課回答) 現時点では、今すぐ水があふれ出ているというような状況は確認していないが、土砂などは年々溜まっていくものなので、現状を注視しながら、修繕をしかるべき時には行っていかなければならないと認識している。

(質問) 貯水能力の数値的な把握はしていると思うが。

(都市整備課回答) 防災調整池を作るときには土砂の堆積はある程度見込んで造っている。ただ、現時点でどの程度まで堆積しているのかは、これから現地を見ながらとやっていくということになる。あと何年もつかというものはっきりしていないのが現状である。

→これまでオーバーフローはなかったが、市としてどう管理しているのかは私たちが気にかけている。(提案者)

→市民の安心・安全にかかわるところなので気になるところである。(委員)

③ 審査結果発表・講評

粉川委員長の進行のもと、各委員の評価を集計した審査結果を次のとおり発表した。

【審査結果】

提案	提案名（提案者）	○	△	結果
1	家庭教育力向上事業「子育てを学ぼう！ハートフルキャラバン」（NPO 法人ハートフルコミュニケーション千葉エリア）	8	2	可
6	竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業（NPO 法人エコネットちば）	10	0	可

審査結果発表後、提案ごとの講評として、粉川委員長と志村委員が模造紙に貼りだした各委員の意見を集約して紹介した（下記：提案1・6）。

提案1 家庭教育力の向上支援事業「子育てを学ぼう！ハートフルキャラバン」（NPO 法人ハートフルコミュニケーション千葉エリア）

【各委員の意見】

印西市におけるニーズをつかんでほしい

- ・印西市でのニーズがあるのか不明確。
- ・子育て環境の現状についてはよくわかりましたが、印西市の現状と課題をあぶりだし、それに対応する事業計画を期待します！

市の事業、他団体との差別化と連携を明確に

- ・印西市の現状（子育て）と課題の明確化
- ・事業終了後にどのように課題解決できるか
- ・現状分析を裏付ける定量的なものがない
- ・事業へ参加していただくための取り組み策が見えない
- ・市の事業とバッティングしていないか
- ・ハートフルさんが最終的の目指す形が見えない
- ・印西市の子育て事業との関係性、関連性はどうなっていますか。明確にしてほしい。
- ・他団体との連携が足りないように思う。市がかかわりながら調整しないのか。
- ・市の他の子育て事業とのつながりを明確にしていくとよい
- ・市との協働・連携の形が具体的に見えない。市内で団体として活動を続けた後、協働事業として提案しても遅くないと思う。
- ・行政ではできない事業を実施するという事なので、他の団体も含め、相互に補完しあ

えるよう、実態を把握して協働できるよう調整してください。

事業計画策定にあたって

1. ターゲットの掘り起こしの具体策を

- ・こうなったらよいということは語られているが、具体的方策を明確にしてほしい。(潜在的なターゲットの掘り起こしをどのように行うか)
- ・子育てに悩み、孤立している当事者にどうやって情報を届け、参加というアクションにつなげるかが難しい点だと思う。具体的な策を検討し、提案してください。
- ・プロのコーチ育成には協働事業としては違和感あり。個別的対応については同感(セッション、ワークショップ)。実際に問題になっている片親、育児放棄等の下層レベルの課題には応えていない。市川は高所得者が多いので実感ないのか？

2. コーチングの内容を具体的に

- ・コーチングという手法の説明をしていただければと思う
- ・コーチングの具体的内容を明確にしてください。

3. 事業の効果をわかりやすく

- ・この事業を通じてどのような親のネットワークが生まれるのか。そこを明確にした事業計画づくりをお願いします。
- ・印西市全体の子育てに対する効果はどの程度期待できるのか。(対象世帯数に対する対可能世帯数等)
- ・実施事業の効果を可視化するために参加者アンケートを実施し活用することを検討してください。

4. 担当課との協議を十分に

- ・方法論、進め方等につき、担当課と十分協議して提案者の位置づけ、活動範囲等を明確にして進めていただきたい。
- ・協働事業として市に期待することを市と十分に話してほしい。

提案6 竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業（NPO法人エコネットちば）

【各委員の意見】

成果評価

- ・目的とする市民活動の推進と、コミュニティの育成、地域の魅力向上がアウトカムとすると事業内容のアウトプットから、どのようになった状態とするのか、市と団体と市民が共有できるようにしてはどうか。
- ・どのくらいのゴミを毎年回収しているのか、数字が出てくるとわかりやすいです。
- ・行政と団体の協働事業が市民にどう還元されているのか、指標を設定し、市民にも共有する方策を検討してほしい。

市の姿勢

- ・市の対応が現状以上進まないのは残念である。
- ・今後どうしていくのかを明確にしないといけない時期に来ていると考えます。
- ・市として今後も事業継続意思を説明されていましたが、いつまでという中長期計画を明示してほしい。
- ・市として将来の展望をもう少しわかりやすく、確実に示してほしい。

水平展開

- ・成果が出た事例として、水平展開に対する考え方を市として明確にしてほしい。

自立

- ・協働事業を永久に継続できないと思われるが、自立に向けての対応を明確にしてほしい。

公園化

- ・周辺地域を「公園」にして整備したほうが、市民の交流の場として価値が上がるのでは？そのほうが市民との協働事業にふさわしいと思う。
- ・地域に受け入れられているので、住民ニーズからすれば、むしろ公園として位置付けて整備していただきたい。

安全性

- ・調整池としての機能は本当に大丈夫なのか？水をためる能力は安全性に大きく影響するのではないか？

エコネット千葉さん頑張って！

- ・市内の他の公園の整備を考えると、他に取り組む団体はないと思われる。
- ・市と協働事業として、指定テーマで今後も継続できるように頑張ってもらいたいと思います。

最後に、粉川委員長が以下のとおり全体の講評を行った。

今回の提案2件は、両方とも最終審査に進んでいただくことになった。提案1では△が2つついたが、初めての提案ということで疑問点を担当課と詰めて、より良い事業計画にしていただきたいと思う。提案6については、事業そのものの価値はみな認めているということが表れている。また、今回の提案で興味深かったのは、ハートフルコミュニケーションは母体が印西市にあるわけではないということだ。新しい印西市の市民活動の形といえる。大きな枠組みの中で活動するNPOであり、そこをどう位置付けるのかという意味も含めて素敵な提案だと思う。竹袋調整池については、市に対しての意見が多かったが、協働事業の指定テーマであるので、それは当然で、ともすると、まるで市民団体への助成金のような協働事業も多い中で、この調整池を今後どうしていくのかという議論の流れができてくるベースとしての意見であって健全な

形だといえる。ぜひ市は市の方向性、市民は市民としての意見、エコネット千葉は受託団体としての意見をそれぞれ出し合って、印西市民のためにどういうものがふさわしいのかという議論ができていければよいと思う。

以上

令和元年8月16日に行われた、印西市市民活動推進委員会の会議録は、事実と相違ないので、これを承認する。

令和2年1月16日

会議録署名委員 粉川 一郎